

会議名称	第6回 おむつリサイクル・ごみ減量推進会議		
開催日時	令和6年1月25日(木) 10:00～11:45	開催場所	掛川市役所 全員協議会室
参加者	<p>検討委員：守屋委員長、井上副委員長、鶴飼委員、東森委員(代理)、山口委員、山崎委員、横山委員</p> <p>コーディネーター：岡田氏</p> <p>掛川市：久保田市長、都築部長、深田課長及び環境政策課</p>		
<p>1 開会(10:00)(司会：深田課長)</p> <p>2 挨拶</p> <p>守屋委員長：元日の能登半島地震では、沿岸部の海底が大きく隆起し、数千年の1回レベルの災害が発生した。一方、近年の温暖化が要因とされる大雨や猛暑など想定外の災害が毎年のように起きている。こうした地球環境の変化を踏まえ、カーボンニュートラルの実現に向けて、ごみ減量・資源化など身近なところから取り組んでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 掛川市においては、令和7年度から新たな焼却施設が稼働するまで一般ごみを外部に全量排出する方針を固めている。また、4月から施行されるもったいない条例について、資源を無駄にすること、ごみ処理にかかる税金をいかに「もったいない」と市民に意識してもらうか、ごみの減量・資源化を市民に肌で感じてもらい、行動に移してもらうための方策等の意見を伺いたい。加えて、これまでの検討内容を振り返るとともに、1人1人の意見をいただきたい。 <p>久保田市長：能登地方では雪が降り大変な状況が続くが、引き続き支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回で会議は最終回となるが、先進地視察等にもご参加いただきながら熱心に議論いただいたことに感謝申し上げます。 令和6年度以降については、令和5年度に議論した内容を実装していけるように努めていきたい。また、これからも持続可能なまちづくりを根本に据え様々な施策を推進していきたい。 <p>3 議題</p> <p>(1) 検討内容の振り返りまとめについて(資料1)(説明：事務局)</p> <p>～ 説明 ～(参考：資料1)</p> <p>検討内容の振り返りまとめについて</p> <p>意見交換(質疑含む)</p> <p>【紙おむつについて】</p> <p>東森委員：医療機関や介護事業所など、紙おむつを大量に使用する施設の意見を集中的に集めていくことで何かヒントが得られる可能性がある。我々のようなスーパーマーケットからは生ごみの処理等、専門分野の事業者などに意見を求めることが大切だと思われる。</p> <p>守屋委員長：紙おむつに関しては事業系から始め、段階的に家庭系へ進めていこうと検討している。</p> <p>横山委員：事業系ごみの実態調査については、事業所に負担のない調査方法でお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> こども園や介護施設を運営する上で、家庭で出た紙おむつも将来的には事業所で集めて回収していけるようなシステムを構築出来れば、臭いや家族への負担感も軽減できるのではないかと。分別や収集の方法についても、事前に周知しアナウンスを行えば上手く進めていく事が可能だと思う。 <p>守屋委員長：調査をするにあたって、事業所に負担のならない形で進めることとしたい。</p>			

【製品プラスチックについて】

各委員：(意見、指摘事項等なし)

【生ごみについて】

東森委員：「飲食店等」と区分される事業者の中には食品を販売する事業者も含まれていると認識しており、調査が負担にならないように、というのは同意できる。弊社では、総菜の売れ残り量の実態調査を行っているが、毎日実施するのは負担であるため、毎週水曜日に実施している。

- ・こうした調査を通年で実施し、傾向を掴みたいと考えており、この結果を踏まえて市民へのアプローチを行い、理解が得られることが望ましいのではないかとと思う。

山崎委員：既存のミニキエーロに特化せず、コンポスト等の他の手法も視野に多くの市民が実践できることが望ましいと考える。

- ・生ごみの資源化後の出口の検討や方向性についても市民に周知できると良いと思う。

【剪定枝・落ち葉について】

守屋委員長：既に自治会で実践しているところもあるが、今後さらに推進することと理解している。

【全体について】

鵜飼委員：おむつは専用の回収袋がないと臭いが出るので困ってしまう。今後、おむつに加えて生ごみも分別回収し、臭いが出ると市民からの反感が出ないか懸念している。その対策について、広報等で市民に積極的にアピールすることで、解消されると考えられる。

山口委員：生ごみは「市民努力の積み重ね」が非常に大事であると思う。

- ・勤め先では、事業所で排出されるトイレットペーパーの芯を産業廃棄物に入れないなどの取組を始め、民間企業としてもごみに対する意識を持つようになった。
- ・自身が委員に選ばれたことが会社にとってもプラスになっており、波及効果を生むために、どのように持続性を持たせるかが大切だと思う。

井上副委員長：南三陸町の生ごみ分別収集の事例など、先進地視察等を実施し、成功例を参考にすることで紙おむつ、プラスチックの処理方法についても検討出来ると思われる。

守屋委員長：資源化の方向性については記載されている方向で進めていきたい。

【検討のポイントについて】

守屋委員長：資料1の1. 会議設置の経緯の中にもあるが、市民に理解を促進するための方策、経済的なインセンティブも含め、行動変容を促す方策について意見をいただきたい。

- ・環境教育の今後の方針や4月のもったいない条例の周知、啓発についても意見をいただきたい。

山口委員：若い世代の方たちは、他人から何かを聞いて教わるというのは苦手な傾向にあると思われるが、アプリ・SNS等自ら選択し排出方法や排出場所等の情報を簡単に得ることができれば、ごみ減量・資源回収促進に繋がるのではないかと。

横山委員：南三陸町の取組で、子どもたちの学校教育の中でごみ分別を理解してもらうものがあった。このような取組はすぐ始められるものだと思う。小学生のごみ処理場見学の経験がその後のごみ減量行為に繋がるのではないかと。子どもが実践すると、親もやることになるので、子どもから啓発していくことも必要であると思う。

守屋委員長：市長からも「今の子ども達は、生涯学習や報徳よりもSDGsを知っている」といった話があったが、子どもへの環境教育を進めていくことは有効と思われる。

鵜飼委員：子ども達から環境教育を広めていくのは良い手法と思う。子どもは純粋で、頭がよく、大人がまっすぐ気持ちを伝えれば理解できると思う。大人が子どもを巻き込んでいくことが重要であると思う。

- ・若い世代は、SNS・アプリ等で情報を得る事が多いので、色々なコンテンツを増やしていくことが大切であり、コンテンツの数が増えることで注目度も上がっていくと思われる。

岡田氏：子どもを通じて親の意識が変わるのは各地で同様の現象が起きている。愛知県長久手中学校では、アマタから提供した簡易バイオキットを家庭科の授業で活用している。子どもたちが給食で出た生ごみを使って、バイオガスを発生させることで、資源循環やSDGsを学ぶ機会となっている。長久手小学校では、小型バイオ装置を設置し、児童らが残り物などを持ち寄り、資源循環を学ぶ環境教育に役立っている。

- ・子どもの教育を通じて、親の意識も変えることができると思われる。時間はかかるが、施策としては重要なものだと考えている。アマタも子ども向け教材「エコシステム倶楽部」を用意しており、テキストデータは無償提供している。こういった教材を利用することで、徐々に活動を広め、やがて市全体に広げることができると思う。

東森委員：市民、事業者への理解促進について、先行地域を特定し、その地域の方が取り組んでいる様子を動画とその地域の方の声を市民から市民に伝えられるような発信も良いと思う。市民同士で行う事で、能動的にごみの分別に取り組むことができると思う。同様に、外国人の方向けに動画も制作することで、ごみの分別などに理解、協力が進みやすいのではないかとと思う。

- ・「分別疲れ」「いつまで活動をしなければならぬのか」という意見も懸念している。負担軽減をしつつ、分別活動を続けてもらう工夫として、弊社では昨年11月、12月に「寄付付き商品販売キャンペーン」を実施している。具体的には、1点購入毎に販売価格内に、フードバンク活動、食支援の為に料金が含まれているというキャンペーンを行った。商品購入と寄付行為を一体化させ、意識せず寄付に参加、社会貢献ができるようなモデルを考えているところである。
- ・おむつを回収する為の専用袋の製造費をどこから捻出するのか、ということも課題になり得る。利用者が購入することで捻出するのか、寄付付き商品の施策を実施することで袋製造費の原資が得られ安価で市民に行き届くのか。いずれにしても、事業者の協力が必要となってくる。寄付付き商品施策を行う事で、市民の方々に楽しく、継続的に社会的課題に目を向けていけるのではないかと考えている。

山崎委員：行政だけで解決できる問題ではないため、自治会や市民団体、教育関係など全体の協力が必要であると思われる。市民だけでなく、企業側にも協力をお願いしたい。

- ・全世代で取り組めるようなごみ減量の取組をPRしていきたい。
- ・経費などを考えることも大切だが、今出来ていることに対して目を向ける事が大切だと思う。

- ・市内のごみ分別方法の違いについては、慎重に周知、啓発をしていくと良いと思う。

横山委員：事業系ごみの最終的な処分状況について把握できていない。委託業者に回収していただいたごみがどのように分別され、どう処理されているかわからない不安がある。委託業者もごみの処理方法について同じように取組んでもらいたい。

守屋委員長：理解促進を図るのに我々が出したごみがどのように展開、処理されるのか周知していく必要があると思われる。情報発信を行政の方でも進めていただきたい。

井上副委員長：温暖化の影響もあり、企業の環境に関する取組が進んでいるように感じる。ここ数年環境をテーマにしたガイダンスを企業に行う中で、環境への取組が進んでいる。事業者同士だけでなく、家族や周囲の人へのマネジメント、教育的なことを事業者側としても実施いただきたい。

(2) ロードマップについて (資料2) (説明：事務局)

～ 説明 ～

ロードマップについて

東森委員：家庭系、事業系におけるモデル地区選定、飲食店事業者の理解促進に向けたアプローチについては、何か所くらいを想定しているのか。

- ・スケジュールは把握できるが、定量的なもの（いつまでに、どのぐらい等）も表記してもらえると、よりロードマップとしての立体感がでてくるように思われる。
- ・和暦、西暦の両方を記載していただくと分かりやすい。

事務局：製品プラスチックについては、令和7年度からモデル地区での取組と明記しており、モデル地区は各地域（掛川、大東、大須賀）から1地区ずつを想定しているが、今後引き続き検討していきたい。また、事業者についても負担なども考慮しつつ検討していきたい。

守屋委員長：ロードマップについて基本的にはこの方向で進めていきたい。

- ・本日までに検討した内容についても、事務局の方でまた整理していただきたい。本日のいただいた意見を含め提言書（案）を作成するため、委員の皆様を確認いただきたい。
- ・提言書の提出については、3/14（木）11時を予定している。詳細は事務局の方から改めて、連絡するようお願いしたい。

【感想等】

鵜飼委員：一主婦として、市と関わりを持つ大きな場にお呼びいただけるとは思いもよらなかった。普段生活をしていて、関わる機会がない方々と話す機会があり、人生観が変わる出来事が多かった。この経験を、子どもや家族、周りに伝えていきたいと思う。

東森委員：掛川市民の環境負荷軽減や2050年に向けた強い意志、行動力が感じられた。消費者アンケートを実施し、160件もの意見をいただいた。「地域社会の課題を解決すること」について意欲が旺盛であり、今後何らかの形で貢献していきたいと思う。

山崎委員：今回学んだ事を個人の知識として留めることなく、多くの人と共有して活動していきたい。

横山委員：掛川市の取組が近隣の市町に波及して、大きな取組になることを願っている。

- ・先進地視察を通じ、貴重な経験をさせていただいた。今後は、個人としてだけでなく法人内にも情報を発信し、取り組んでいけるようにしたい。

山口委員：1年間の会議を通じて、楽しく、自ら進んで活動に取り組むことができた。また、メルカリ等もスタートしており、今後のアプリに関しても期待している。

井上副委員長：先進地視察で学んだ事を今後活かしていきたい。掛川市は環境、廃棄物、エネルギーに関してトップランナー的な立ち位置にいると思う。紙おむつリサイクルについても、是非実現していただき、掛川市を目標にして各市町が目指せるような取組を進めていただきたい。

守屋委員長：今までは区長という立場でごみと向き合ってきたが、ごみ問題に対して環境と言う観点で視野を広げる機会を与えていただき感謝している。

- ・勉強をしていく中で、「ごみゼロへの挑戦」という本があり、掛川市が取り上げられている。ごみ減量日本一である事をもっとPRしていきたい。ごみ減量日本一という意識も市民の中ではあまりないため、よりPRしていく必要があると感じている。
- ・環境資源ギャラリーに行った際に、掛川市のごみ処理の現状を目の当たりにし、それを区民に伝えることでごみ減量の活動をPR活動の一環にしていきたい。区長としても問題が肌で感じるような活動をしていくことが大切だと思われる。
- ・皆様から色々なアイデアがあれば事務局にお寄せいただきたい。

都築部長：2か月に1回の会議スケジュールの中で、大量の資料を読み込み、会議に集中していただけに感謝申し上げる。

- ・専門家の方々を迎えつつ、市民の皆様に近い委員の皆様と様々な角度から議論ができたことが大変有意義であった。
- ・これまで議論を踏まえて、来年度からの実践のフェーズに入る。これまでの意見を参考にしながら進めていくとともに、「教育」「共感」「取り組みやすさ」「楽しさ」などに配慮した継続性を考慮していきたい。
- ・資源循環における過程を市民の皆様知ってもらえるように活動していきたい。

岡田氏：毎回の会議でご意見をいただいたことに感謝申し上げます。

- ・事業者としては実践のフェーズに入るの、何らかの形で取組に関わられたらと思っている。

(3) その他

事務局：その他ご意見・ご質問等があれば事務局へお寄せいただきたい。

- ・1/22～2/21の間、「掛川市一般廃棄物処理基本計画」のパブリックコメントを実施している。
- ・委員の皆様にも意見書を配布しており、ご意見があればお寄せいただきたい。本日の記録も追って送付、市のホームページでも公表予定である。

久保田市長：皆様方には長期間にわたり、真剣に議論にご参加いただいたことに感謝申し上げます。

- ・掛川市はごみ減量の分野において成果を出しているが、この結果に満足をしているわけではない。また、ランキングを求めている訳でもない。地方自治体に求められているものは、「持続可能なまちづくり」である。環境資源だけでなく少子化なども含めて、これまでどおりに取り組むことが難しくなっている状況の中で、どう解決していくのかが最大の課題であると認識している。
- ・掛川市は、ごみの処理に年間10億円程度（病院の運営と同じくらい）の費用がかかっており、財政的にもごみの問題は大きいと認識している。

- ・令和6年度以降、これまでの議論を定量的にもスケジュール的にもしっかりと受け止め努力していきたい。
- ・和暦に関しては、記載を省けないため西暦と両方記載していく方向で考えていきたい。

4 閉会（11：45）

－以上－